

冒険遊び場活動の拡充・制度化を求める請願

<請願要旨>

近年、小学生を中心とした子どもたちの遊び場が急速に失われています。しかし自由に身体全体を使い伸び伸びと遊ぶ自然体験や、子どもたちが自ら創意工夫しながら遊びを考案したり、学年や学級を超えて人間関係を構築する「育つ力」を育む場が必要なことは論を待ちません。

現在、全国で約290団体が活動している冒険遊び場（プレーパーク）は「子どもがのびのびと思い切り遊べるように、禁止事項を極力なくし『自分の責任で自由に遊ぶ』ことを大切にして、子どもが遊び場にある道具や工具、廃材や自然のままの素材を使って自分のしたいことを実現していく遊び場」（日本冒険遊び場づくり協会）で、地域住民が主体的に運営し、自治体が場所や設備、人材配置等を支援する「市民と行政の協働」で進められています。

町田市政においても「子どもマスタープラン」に「自然の中で創意工夫して遊べる場の確保（冒険遊び場等）」と謳われ、中期経営計画（2007年～2011年）では市内6ヶ所に冒険遊び場を設置するという目標が掲げられています。しかし現在、町田市では「特定非営利活動法人子ども広場あそべどもたち」（三ツ又冒険遊び場たぬき山、活動歴12年）、「きつねはらっぱ冒険遊び」（同8年）、「相原冒険遊びの会」（同8年）の3団体が3ヶ所で「町田市冒険遊び場補助金要綱」に基づき、プレーリーダー人件費等の補助を受けて継続的な冒険遊び場活動を実施するに止まっています。上記各団体は「町田市一日冒険遊び場活動補助金」等を利用して、市内各地で一日のみの出前冒険遊び場を企画実行する等普及拡大にも努めてはいますが、上記要綱の要件に見合う継続的な遊び場としては目標の6ヶ所は未だ達成されていません。

活動が拡がらない理由として、町田市に冒険遊び場活動を総合的に支援する明確な基本方針と制度がないことがあげられます。そのため活動場所の確保が難しかったり、活動が制限される等、冒険遊び場活動の継続と普及拡大を困難にしています。

全国に目を向けますと、制度化を進めている自治体が増えています。たとえば横浜市は「プレイパーク基本方針」と「同運営支援要綱」を定め、普及拡大に力を入れています。町田市においても早急な制度の整備と拡充が必要であると考えます。そこで、以下の請願をいたします。

<請願項目>

1. 子どもマスタープラン及び中期経営計画に基づき、冒険遊び場の設置促進をしてください。
2. 冒険遊び場を普及拡大していくため、冒険遊び場活動を総合的に支援する明確な基本方針及び制度上の根拠となる要綱等の制度を整備して下さい。